

連続講座 申込票 ※ 3月18日より受付開始

2025年 月 日

FAX送信先:075-252-3001

※ 受講希望の講座の□にレ印を記入願います。

<講座内容> 全8回 1講座から受講可能 13:30～15:10 (12:30 受付開始)

5月10日(土) 平安京から京都へ 金田章裕

6月21日(土) 絵巻と記録から寝殿造を紐解く 赤澤真理

7月5日(土) 後宮世界の秘めごと 栗本賀世子

9月6日(土) 平清盛の生母の謎 臈谷 壽

9月28日(日) 平安京の流行歌 植木朝子

10月18日(土) 王朝文学と宇治 家塚智子

11月16日(日) 斎王制度と天皇制 榎村寛之

12月20日(土) 平安京の創建と変容 山田邦和

合計( )講座を申し込みます。

お名前 ( ) ふりがな( )

住所 (〒 - )

日中連絡のつく電話: ( )

FAX: ( )

E-mail(普段お使いのアドレスがあれば):( )

koukai-k@kodaigaku.org からのメールの受信設定をお願いします。

▼ 会場アクセス ▼

京都府立京都学・歴彩館

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町 1-29

◇ 交通機関のご案内

- ・京都市営地下鉄烏丸線「北山駅」1番出口から南へ徒歩約4分
- ・京都市バス1系統・206系統「府立大学前」(北大路通)下車 北へ約6分



# 平安王朝の暮らしと文化

昨年度は、平安時代の中でも紫式部の生きた時代に絞って企画しましたが、ぜひ続編をという声にお応えして、今回は時代を平安時代全般へと広げつつ全8回、多彩で変化を持たせる内容と致しました。皆様には、大ホールでゆったりと聴講していただけます。

<講座内容> 全8回 1講座から受講可能 13:30～15:10 (12:30 受付開始) 各講演 90分

1. 5月10日(土) 平安京から京都へ 金田章裕 (京都府立京都学・歴彩館館長、京都大学名誉教授)
2. 6月21日(土) 絵巻と記録から寝殿造を紐解く 赤澤真理 (大妻女子大学准教授)
3. 7月5日(土) 後宮世界の秘めごと一天皇と后妃の夫婦生活 栗本賀世子 (慶應義塾大学准教授)
4. 9月6日(土) 平清盛の生母の謎 臈谷 壽 (古代学協会理事長、同志社女子大学名誉教授)
5. 9月28日(日) 平安京の流行歌-『梁塵秘抄』の世界 植木朝子 (同志社大学文学部教授)
6. 10月18日(土) 王朝文学と宇治 家塚智子 (宇治市源氏物語ミュージアム館長)
7. 11月16日(日) 斎王制度と天皇制-御杖代と呼ばれた皇女たち 榎村寛之 (いつきのみや歴史体験館長)
8. 12月20日(土) 平安京の創建と変容 山田邦和 (古代学協会理事、同志社女子大学特任教授)

※講師と講座の紹介については内側をご覧ください。

## 3月18日(火)より全講座受付開始(期日前到着分無効)

申し込み方法：当協会webサイト<講演会開催情報>ページの申込フォームから(下記QRコードにて読み取り可能)。またはFAX、往復ハガキに、ご希望の講座番号、お名前(ふりがな)、郵便番号、住所、電話を明記の上、下記連絡先まで(FAX申込は裏面の用紙をお使いください)。

定員：300名 定員になり次第受付終了  
資料代ほか：各回1000円(当日) 古代学協会正会員は800円

◆コロナの感染状況、台風等の気象状況により変更・中止することがあります。  
当協会WEBサイト、Facebook、電話等でご確認願います。

▼ 連絡先 ▼

公益財団法人 古代学協会

604-8131京都市中京区三条高倉西入る菱屋町48

TEL 075-252-3000 (火～土：10:00～17:00)

FAX 075-252-3001

E-mail:koukai-k@kodaigaku.org

URL: https://kodaigaku.org

申込QRコード



FBページQRコード



## ＜講師と講座の紹介＞ 開講日順

### 金田 章裕（きんだ あきひろ） 「平安京から京都へ」

8世紀末の遷都によって平安京が成立し、やがて順に、洛中・京・京都と呼ばれることが多くなりました。京都の表現はすでに鎌倉時代の『吾妻鏡』に散見しますが、近代に入って定着しました。平安京は碁盤目の都市計画からなる政治都市、洛中は実質的な市街で政治中心でもありました。京は江戸・大坂とともに三都と呼ばれた都市であり、北部中央にあった平安宮は左京の禁裏・公家町へと変化しました。近代の京都は政治中心ではなくなったものの、産業・技術・研究・教育の先端を模索した都市でもありました。このような機能の変化とともに、市街は平安京左京の東辺に移り、碁盤目状の街路ではありますが、幅広い街路網が狭い街路へと変わったのです。

京都府立京都学・歴彩館館長。京都大学名誉教授。京都府公立大学法人理事長。砺波市立砺波散村地域研究所所長。元大学共同利用機関法人・人間文化研究機構機構長。専門は人文地理学、歴史地理学。京都大学文学部卒業、同大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。主著として『微地形と中世村落』（吉川弘文館）、『古地図からみた古代日本』（同）、『大地へのまなざし』（思文閣出版）、『文化的景観』（日本経済新聞出版社）、『古地図で見る京都』（平凡社）、『景観からよむ日本の歴史』（岩波書店）など。

### 赤澤 真理（あかさわ まり） 「絵巻と記録から寝殿造を紐解く」

『源氏物語』『枕草子』の舞台となった寝殿造の空間は、現存して建っているものはひとつもありません。後世の人びとは、寝殿造の空間をどのように研究し、今日における理解がつけられてきたのでしょうか。本講座では、絵巻物と記録、復原建物などを通して、平安王朝の人びとの生活感にふれていきます。絵巻物や古建築の鑑賞方法について学び、当時の女性がどのような場所で生活していたのかについても紹介していきます。

大妻女子大学家政学部ライフデザイン学科准教授。日本工業大学大学院工学研究科建築学専攻修了。博士(工学)。専門は日本住宅史・住文化史。源氏物語絵に描かれた建築空間としつらい、寝殿造の考証学について研究。主な著書に、『源氏物語絵にみる近世上流住宅史論』(中央公論美術出版)、『御簾の下からこぼれ出る装束―王朝物語絵と女性の空間―』(平凡社)、『住吉如慶筆伊勢物語絵巻』（共著）(思文閣出版)など。日本建築学会奨励賞、文部科学大臣表彰若手科学者賞受賞。

### 栗本 賀世子（くりもと かよこ） 「後宮世界の秘めごと―天皇と后妃の夫婦生活」

平安時代の天皇と后妃の夫婦の暮らしはどのようなものだったのでしょうか。多くは政略結婚の形から始まりましたが、天皇に全く顧みられない后妃もいれば、寵愛を一身に受け、時めく后妃もいました。本講座では、天皇と后妃の出会いから、遊びを通しての夫婦仲の深まり、夫婦喧嘩、出家や死による離別の場面まで、さまざまな史実と物語におけるエピソードを紹介しながらお話ししていきたいと思います。

慶應義塾大学准教授。東京大学文学部卒業、同大学院人文社会系研究科修了。博士（文学）。『源氏物語』・『うつほ物語』を中心とした平安朝物語文学を研究。著書として『平安朝物語の後宮空間』（武蔵野書院、第16回紫式部学術賞受賞）、『源氏物語の舞台装置』（吉川弘文館）、共著に『はじめて読む源氏物語』（花鳥社）、論文に「光源氏青年期の桐壺住み―皇位継承の代償としての内裏居住―」（寺田澄江・田淵句美子・新美哲彦編『源氏物語 フィクションと歴史 文学の営みを通して』青簡舎）など。

### 臈谷 壽（おぼろや ひさし） 「平清盛の生母の謎」

貴族全盛期には彼らの護衛役になるなど下級身分に甘んじていた武士が、12世紀中期に起きた保元・平治の乱を契機に存在を確たるものになりました。その一人に平清盛がいます。清盛は乱の翌年に参議となり、武士として初の公卿となりました。その後も累進して従一位太政大臣にまで昇りつめ頂点を極めました。この異常な出世は、実父が白河天皇、母が祇園女御であることによる、と『平家物語』にはあります。果たしてそうか、真偽を探りたいと思います。

古代学協会理事長、同志社女子大学名誉教授。同志社大学文学部卒業。専攻は日本古代史。平安博物館助教授、同志社女子大学教授などを歴任。古典の日推進委員会アドバイザー、社団法人紫式部顕彰会副会長。2005年京都府文化賞功労賞、2022年京都市芸術振興賞を受賞。2024年に令和6年度地域文化功労者表彰を受ける。主著として『平安京の四〇〇年』（ミネルヴァ書房）、『藤原彰子』（同）、『藤原道長』（同）、『平安貴族と邸第』（吉川弘文館）、『源氏物語の風景』（同）、『史実でたどる紫式部』（共著）（光村推古書院）など。

### 植木 朝子（うえき ともこ） 「平安京の流行歌―『梁塵秘抄』の世界」

平安時代末、京都で大流行したはやり歌がありました。目新しく派手な魅力を持つ故に「今様」と名づけられた歌謡です。『紫式部日記』や『枕草子』にも今様歌の記事が見え、専門歌手としての遊女や白拍子が活躍します。この今様の魅力に取りつかれた帝王・後白河院は、今様集『梁塵秘抄』を編みました。本講座では今様の歴史や担い手について概観し、『梁塵秘抄』に収められた歌のいくつかを取り上げて、その豊かな世界を味わいたいと思います。

同志社大学文学部教授。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻単位取得満期退学。博士（人文科学）。著書に『梁塵秘抄とその周縁』（三省堂）、『中世小歌 愛の諸相』（森話社）、『梁塵秘抄の世界』（角川選書）、『風雅と官能の室町歌謡』（角川選書）、『梁塵秘抄』（ちくま学芸文庫）、『虫たちの日本中世史』（ミネルヴァ書房）など。

### 家塚 智子（いえつか ともこ） 「王朝文学と宇治」

風光明媚な宇治の地は、歴史的にも文学的にも豊かであり、『源氏物語』をはじめ数多の文学作品の舞台として親しまれています。宇治の情景は、和歌に詠まれ、物語のなかで描写されるだけでなく、名所図として視覚化、絵画化されてきました。宇治を舞台にした文学作品を繙きつつ、今日に至るまで、現実の宇治に与えた影響などもご紹介したいと思います。

宇治市源氏物語ミュージアム館長、宇治市歴史資料館館長。2021年4月から現職。奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了。博士（文学）。専門は日本中世史、日本文化史。著書に『初めての源氏物語 ―宇治へようこそ―』（一般財団法人宇治市文化財愛護協会）、共著に『別冊太陽 有職故実の世界』（平凡社）、論文に「宇治を描く ―『源氏物語』・歌枕・名所図―」（京都学研究会編『京都を学ぶ 宇治編 文化資源を発掘する』ナカニシヤ出版）など。

### 榎村 寛之（えむら ひろゆき） 「斎王制度と天皇制―御杖代と呼ばれた皇女たち」

飛鳥時代から鎌倉時代まで、伊勢神宮に仕えた皇族女性、斎王とその宮殿の斎宮。その役割や実態、平安文化との関わり方などについて、文献、物語、発掘調査など、近年わかってきた情報をまとめて、斎王はなぜ必要だったのかをテーマに、時代によって変化してきた最新の斎宮イメージをお届けします。

大阪市立大学文学部卒業、岡山大学大学院文学研究科前期博士課程修了、関西大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。三重県立斎宮歴史博物館学芸普及課長等を経て、いつきのみや歴史体験館長、関西大学等非常勤講師。専門は日本古代史。博士（文学）。主著に『斎宮―伊勢斎王たちの生きた古代史』（中公新書）、『律令天皇制祭祀の研究』（塙書房）、『伊勢斎宮と斎王―祈りをささげた皇女たち』（同）、『古代の都と神々―怪異を吸いとる神社』（吉川弘文館）、『伊勢斎宮の歴史と文化』（塙書房）、『伊勢斎宮の祭祀と制度』（同）、『伊勢神宮と古代王権―神宮・斎宮・天皇がおりなした六百年』（筑摩選書）、『律令天皇制祭祀と古代王権』（塙書房）、『謎の平安前期―桓武天皇から『源氏物語』誕生までの200年』（中公新書）、『女たちの平安後期―紫式部から源平までの200年』（同）など。

### 山田 邦和（やまだ くにかず） 「平安京の創建と変容」

延暦13年（794）、桓武天皇によって造営された新しい都、それが平安京です。それまでの都は平城京ですら70年、それ以外は数年からせいぜい十数年しか続かなかったのですが、平安京は度重なる試練を乗り越えながら、人々に「永遠の都」として認識されるようになりました。平安京の創建と変容の姿を、最新の考古学、文献史学の成果によって復元していきたいとおもいます。

同志社大学大学院博士課程前期修了。〔財〕古代学協会(平安博物館、古代学研究所)、京都文化博物館、花園大学教授を経て、現在、同志社女子大学特任教授、〔公財〕古代学協会理事・研究部長。主著として『カラーブックス 京都』(保育社)、『平安京提要』(共著、角川書店)、『京都都市史の研究』(吉川弘文館)、『日本中世の首都と王権都市―京都・嵯峨・福原―』(文理閣)、『京都 知られざる歴史探検』上・下巻(新泉社)など。